

2025（令和 7）年度事業報告書

公益財団法人 日本糖尿病財団

理事長 岩 本 安 彦

東京都文京区本郷 3 丁目 9 番 11 号 平原ビル 302

2025（令和 7）年度 事業報告書

（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日まで）

I 事業の概要

1991（平成 3）年 9 月 18 日に設立された当財団は、2013（平成 25）年 4 月 1 日には内閣府より認可を得て公益財団法人への移行登記を行い、公益目的事業の推進に力を注ぎ実施してきた。

公益目的事業の「1」として、前年度に引き続き、糖尿病に関する調査研究等に対する助成事業の推進を図るとともに、糖尿病に関する予防キャンペーンによる正しい知識の普及啓発活動の実施および助成を行った。また、研究者向け専門誌の発行も継続して行った。

公益目的事業の「2」として、厚生労働省が推進する「糖尿病予防のための戦略研究」のうち課題 3（J-DOIT3）を継承し、「2 型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入終了後の追跡研究」を実施してきた。

II 事業の内容

公益目的事業 1

1. 研究助成の実施（下記助成についてはホームページにも掲載している）

（1）糖尿病に関する調査研究に対する助成

糖尿病合併症の種類・治療状況などの実態調査・研究、発症機構や発病メカニズムの解明を目的とする研究など、国内で行われる糖尿病に関する幅広い研究について、40 歳以下の若手研究者に限定した募集を行った。応募は全国から 14 件あり、研究の計画性、予防・治療への応用性、治療薬の開発等の面から、選考委員会における応募課題の 5 段階評価を踏まえた慎重な審査結果を経て、5 名に対し総額 250 万円の助成を実施した。

助成対象者は別添 1 のとおり。

（2）日本ベーリンガーインゲルハイム㈱との共同企画による研究助成

「高齢者糖尿病（認知症・サルコペニア・フレイルを中心として）に関する基礎的または臨床的研究」について、45 歳以下の国内在住研究者に限定した募集を行った。応募は全国から 17 件あり、研究の計画性、予防・治療への応用性、治療薬の開発等の面から、選考委員会における応募課題の 5 段階評価を踏まえた慎重な審査結果を経て、5 名に対し総額 900 万円の助成を実施した。

助成対象者は別添 2 のとおり。

（3）ノボノルディスクファーマ㈱との共同企画による研究助成

「糖尿病に関連する心血管疾患や腎症に関する研究」について、年齢制限は設けず国内在住研究者に限定した募集を行った。応募は全国から 21 件あり、研究の計画性、予防、治療への応用性、治療薬の開発等の面から、選考委員会における応募課題の 5 段階評価を踏まえた慎重な審査結果を経て、18 名に対し総額 1,800 万円の助成を実施した。

助成対象者は別添 3 のとおり。

(4) コストコホールセールジャパン(株)との共同企画による研究助成

「小児または若年発症糖尿病（いずれも病型は問わない）に関する基礎的または臨床的研究」について、年齢制限は設けず国内在住研究者に限定した募集を行った。応募は全国から 8 件あり、研究の計画性、予防、治療への応用性、治療薬の開発等の面から、選考委員会における応募課題の 3 段階評価を踏まえた慎重な審査結果を経て、3 名に対し総額 220 万円の助成を実施した。

助成対象者は別添 4 のとおり。

(5) サノフィ(株)との共同企画による研究助成

「1 型糖尿病に関する基礎的または臨床的研究」について、年齢制限は設けず国内在住研究者に限定した募集を行った。応募は全国から 11 件あり、研究の計画性、予防、治療への応用性、治療薬の開発等の面から、選考委員会における応募課題の 5 段階評価を踏まえた慎重な審査結果を経て、4 名に対し総額 900 万円の助成を実施した。

助成対象者は別添 5 のとおり。

(6) 学術研究集会ならびに総合調査研究に対する助成

糖尿病に関する学術研究集会ならびに糖尿病の基礎的および臨床的問題に関する調査研究について応募があったものの中から、選考委員会における慎重な内容審査の結果を経て助成を実施した。

助成先は別添 6 のとおり。

※研究助成における選考委員会の構成は以下のとおり。

委員長	春日 雅人	公益財団法人朝日生命成人病研究所 所長
委員	石橋 俊	いしばし糖尿病内分泌内科クリニック 院長
〃	宇都宮一典	医療法人財団慈生会野村病院 常勤顧問
〃	柏木 厚典	社会医療法人誠光会淡海医療センター 名誉院長
〃	河盛 隆造	順天堂大学大学院 代謝内分泌内科学 特任教授
〃	寺内 康夫	横浜市立大学大学院 分子内分泌・糖尿病内科学 教授
〃	山田祐一郎	関西電力病院 副院長

2. 糖尿病に関する予防・教育啓発活動の実施

(1) 糖尿病予防キャンペーン講演会を西日本地区として、京都市において下記のとおり開催した。

会場参加と WEB によるライブ配信も併用したハイブリッド形式にて開催しており、合わせて 100 人を越える参加者があった。

主 催：京都府医師会、日本糖尿病財団、JADEC 京都、京都糖尿病医会、京都腎臓医会、京都府歯科医師会、京都府糖尿病療養指導士認定委員会、日本糖尿病学会近畿支部、京都府、京都市

世 話 人：矢部 大介（京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学 教授）

日 時：2025 年 11 月 9 日（日）14：00～16：00

テ ー マ：『ダイアベティス（糖尿病）を正しく知って、健康長寿を手に入れよう！』

司 会 矢部 大介

上田 三穂（京都府医師会 理事）

開会挨拶 福井 道明（京都府糖尿病対策推進事業委員会委員長・JADEC 京都
会長・京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学 教授）
岩本 安彦（日本糖尿病財団 理事長）

基調講演

『お口の機能の衰え（オーラルフレイル）に気づいていますか？』

講師：松井 大輔（京都府立医科大学大学院 地域保健医療疫学）

『フレイル・サルコペニア予防と運動について』

講師：橋本 剛生（洛和会丸太町病院 リハビリテーション部 主席係長）

特別講演

『「糖尿病のない世界」が来る日まで』

講師：植木 浩二郎（国立国際医療研究センター 糖尿病研究センター長）

閉会挨拶 長谷川 剛二（京都府糖尿病対策推進事業委員会副委員長・京都糖尿病
医会会長・京都新町病院院長）

[各相談・検査コーナー]

相談①栄養相談

②薬の相談

③歯とお口の相談

検査①血糖検査

②血管年齢検査

③尿検査

(2) 糖尿病予防キャンペーン講演会を東日本地区として、埼玉県毛呂山町において下記の
とおり開催した。

参加は事前申込制を基本としており、当日は 100 人ほどの来場者があった。

主 催：日本糖尿病財団

埼玉医科大学病院 内分泌内科・糖尿病内科

世 話 人：島田 朗（埼玉医科大学病院 内分泌内科・糖尿病内科 教授）

日 時：2025 年 11 月 15 日（土）13：00～15：00

テ ー マ：『糖尿病予防キャンペーン』

総合司会 島田 朗

開会挨拶 岩本 安彦（日本糖尿病財団 理事長）

講演 1 「今日からはじめる糖尿病予防～できることから始めましょう～」

講師：及川 洋一（埼玉医科大学病院 内分泌内科・糖尿病内科 教授）

講演 2「合併症の予防を目指した 2 型糖尿病の薬物療法」

講師：柳澤 慎之介（埼玉医科大学病院 内分泌内科・糖尿病内科 助教）

講演 3「最新の血糖測定方法、インスリン治療～明るい未来のために～」

講師：里村 敦（埼玉医科大学病院 内分泌内科・糖尿病内科 講師）

講演 4「“かんじん”な塩の話」

講師：波田 祐生子（埼玉医科大学病院 栄養部）

講演 5「足を守る！毎日のケア」

講師：木内 恵子（埼玉医科大学病院 看護部）

閉会挨拶 島田 朗

3. 糖尿病に関する印刷物の刊行

2022 年 1 月から再発刊となっている糖尿病研究者向けの専門雑誌「Diabetes Journal：糖尿病と代謝」の発行元として、Diabetes Journal 編集委員会の企画、(株)協和企画の制作により刊行を継続実施した。

公益目的事業 2

「2 型糖尿病患者を対象とした血管合併症抑制のための強化療法と従来治療とのランダム化比較試験介入後の追跡研究」の実施

本事業は、厚生労働省による「糖尿病予防のための戦略研究」のうち、2006 年 6 月に開始された課題 3（J-DOIT3）を継承するものである。

本研究では、血糖・血圧・脂質に対してより厳格な目標を設定した治療を行い、従来のガイドラインに沿った治療と比較して、大血管障害の進展を 30%抑制できるかを検討し、ランダム化比較試験の介入終了後の追跡研究によって、糖尿病に伴う血管合併症の発症・進展予防に対する長期の有効性を評価することを目的としている。

ランダム化比較試験は全国 81 医療施設と 2,542 例の被験者登録により、平均 8.5 年間という長期にわたる試験治療が進められ、この介入研究自体は 2016 年 3 月末で一旦終了したが、これまでの糖尿病に対する臨床研究にも比肩する期間となった。

本研究の解析結果は 2017 年 9 月に欧州糖尿病学会（EASD2017）にて発表するとともに、国内では協力施設の関係者向けに報告会を実施し、英国科学雑誌（Lancet Diabetes & Endocrinology）への掲載も行っている。

一方、これまでの糖尿病の合併症抑制の介入研究における強化療法の有効性は、介入終了後の長期追跡が不可欠であったことから、治療効果をより長期的に観察するため、介入終了後の追跡研究を 2016 年 4 月より 5 年間（2021 年 6 月まで）の予定で開始した。追跡研究では 75 医療施設で、介入研究中の死亡・脱落などを除く同意の得られた 1,730 例の継続参加のもと、1 年ごとに調査を実施した。

具体的には、身長・体重や薬物療法の実施状況等とともに、重要な危険因子である HbA1c・血圧・コレステロール値に加え、血液学検査、肝・腎機能検査等の定期調査項目、及び主要又は副次評価項目として設定したイベント発生の有無について調査を継続

実施した。介入期間中の HbA1c・血圧・LDL-コレステロール値・HDL-コレステロール値が各イベント発生に及ぼす効果について、具体的な解析結果も得られつつある。

また、介入研究は大血管症の予防に主眼を置いていたが、追跡研究では超高齢社会のわが国において糖尿病診療上の重要な課題となっている生命予後や健康寿命に影響を与える併存疾患等にも重点を置いており、糖尿病やその治療薬と関連の深い重症低血糖、心不全による入院、悪性新生物、骨折、認知機能、QOL についても探索的評価項目として、調査中止となるケースも含め継続的に情報の収集を行ってきた。

なお、追跡研究は当初 2021 年 6 月に終了する予定であったが、Steno-2 Study 等の先行研究においては治療効果のより長期的な検討がなされており、介入期間と同等かそれ以上の期間に亘ってその後の追跡がなされている。本研究も主解析における観察期間は中央値 8.5 年であったことから、これと同等の追跡期間を得るためには少なくとも 10 年間の追跡期間が必要と考えられ、追跡研究の実施期間を追跡 2 期としてさらに 5 年間延長する方針とした。

追跡 2 期では、72 施設における被験者の意思確認を経て、質を担保した形で長期に研究を継続するために定期調査項目を重要なものに絞るとともに、副次評価項目には主要心血管イベントの発現、探索的評価項目には認知・生活機能の評価や肺炎による入院を追加して継続調査を実施してきた。

今年度は、解析対象症例数 (1,692 例) を確定して追跡 1 期の解析を進めており、その主解析では、HbA1c や血圧の群間差が介入期間中と比べて縮小していたにも関わらず、強化療法群では腎症イベント、網膜症イベント、主要心血管イベント (MACE) および脳血管イベントの有意な抑制が示された。これらの結果から、血管合併症に対する、いわゆる legacy effect (metabolic memory) の存在が示唆された。

さらに介入研究のサブ解析も継続して実施しており、網膜症に関するサブ解析論文が 2025 年度に JAMA Ophthalmol. (2025;143(12):989-997.) に掲載された。また、総死亡、心筋梗塞、脳卒中と HbA1c、血圧、脂質との関連を検討した疫学的解析の論文を投稿し、現在改訂中であり、MACE のサブ解析の論文も投稿準備中である。QOL のサブ解析では、強化療法群で治療満足度が有意に高いこと、強化療法群における高い治療満足度は HbA1c の改善に起因すること、注射療法は治療満足度を有意に低下させることを明らかにした。

当財団は引き続き関係者の利益相反についての管理を行うとともに、各委員会の運営を含め研究基盤整備のためのサポートを行ってきたが、現行の追跡研究 (追跡 2 期) は 2026 年 6 月をもって終了となる。今後はその解析に至るまでの所要業務をフォローしていくこととなるが、追跡 1 期に加えて追跡 2 期終了時にも統計解析を行うことにより、強化療法の幅広い効果が明らかとなれば、特に我が国の糖尿病対策においても重要なエビデンスとなることが期待される。糖尿病診療の現場に与える影響も大きく、ひいては生命予後に直決し、高額な医療費を必要とする大血管合併症の予防につなげることができる。

2025年度 日本糖尿病財団研究助成 対象者

(各50万円)

氏 名	所 属	研 究 課 題
清水 順也	北里大学大学院 医療系研究科 大学院生	膵 α 細胞系譜の最上流に位置する遺伝子の同定に向けたトランスクリプトーム解析
ZOU MENG	群馬大学生体調節研究所 代謝疾患医科学分野 研究員	内因性オピオイドによる膵 β 細胞増殖抑制機構の解明とその治療標的化
中村 慎太郎	九州大学病院 内分泌代謝・糖尿病内科 特任助教	糖尿病による骨格筋代謝障害に対する内因性AMPK活性化物質AICARPの役割の解明
森田 靖子	神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学 医学研究員	ヒトを対象としたメトホルミンによる腸管代謝変容に関する研究
渡辺 崇広	名古屋大学大学院医学系研究科 微生物・免疫学講座 ウイルス学 講師	共生腸内細菌由来細胞外小胞を基盤とした免疫寛容誘導による1型糖尿病制御法の開発

五十音順

第12回(2025年度) 日本糖尿病財団・ベーリンガーインゲルハイム研究助成 対象者

(各180万円)

氏 名	所 属	研 究 課 題
小野 麻衣子	量子科学技術研究開発機構 量子 生命科学研究所 量子生命スピン グループ 主任研究員	2型糖尿病治療剤による認知症リスク低減の背景機序 に関わる認知症病態メカニズムの解明
高橋 侑也	秋田大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科 医員	GIPの骨格筋間葉系前駆細胞への作用解明によるサ ルコペニア治療法開発のための基礎的研究
田中 愛	信州大学医学部医学科 循環病態学教室 特任助教	AM-RAMP系を標的とした高齢者糖尿病におけるサル コペニア・フレイルの予防・治療戦略
内藤 仁嗣	順天堂大学医学部 内科学教室・代謝内分泌学講座 助教	SGLT2阻害薬が脳老廃物クリアランスシステムに与え る影響の検討
中島 華子	京都府立医科大学大学院 医学研究科 内分泌・代謝内科学 病院助教	高齢者における身体活動パターンがサルコペニアおよ びインスリン抵抗性に与える影響:アミノ酸代謝を介し た分子メカニズムの解明と運動処方への応用

五十音順

第5回(2025年度) 日本糖尿病財団・ノボノルディスクファーマ研究助成 対象者

(各100万円)

氏 名	所 属	研 究 課 題
安部 功記	札幌医科大学医学部 薬理学講座 助教	ヒト尿中細胞外小胞解析と腎組織シングルセル解析の統合による糖尿病性腎臓病の新規マーカーの開発
川瀬 治哉	名古屋大学医学部附属病院 循環器内科 病院助教	心腎代謝症候群における血管内皮インスリン抵抗性の病態的意義とバイオマーカー開発
久保 晴丸	北里大学医学部 糖尿病・内分泌代謝内科学 助教	肥満症を併発した糖尿病のある人における長期的な腎機能変化および各種パラメータとの相関解析
斎藤 幸弘	岡山大学学術研究院医療開発領域 (岡山大学病院)循環器内科 助教	iPS細胞由来細胞外小胞による糖尿病性骨髄老化の抑制
酒井 晋介	大阪大学医学部附属病院 血液浄化部 医員	近位尿細管におけるMondoA依存的代謝シフトと脂肪酸酸化低下が糖尿病性腎症進展に及ぼす影響の解明
桜井 敬之	信州大学医学部医学科 循環病態学教室 准教授	糖尿病性腎症における小胞体ストレス制御を標的とした新規治療戦略
迫 恵輔	金沢大学附属病院 腎臓・リウマチ膠原病内科 特任助教	CKM症候群における循環Kim1を介した臓器間クロストークの解明と新規治療戦略の開発
笹島 沙知子	愛知学院大学歯学部 内科学講座 助教	糖尿病における歯周病の併存が糖尿病性腎症に与える影響とそのメカニズムの解明
銭丸 康夫	福井大学医学部附属病院 内分泌・代謝内科 医学部附属教育支援センター 講師	糖尿病性心筋症の発症におけるHMG-CoA Synthase2とケトン体蓄積の関与の解明
臧 黎清	三重大学大学院地域イノベーション 学研究科 西村ラボ 特任講師	糖尿病性腎症モデルゼブラフィッシュを基盤とするAI駆動型創薬研究

第5回(2025年度) 日本糖尿病財団・ノボノルディスクファーマ研究助成 対象者

(各100万円)

氏 名	所 属	研 究 課 題
土屋 恭一郎	山梨大学大学院総合研究部医学域 臨床医学系(内科学講座 糖尿病・ 内分泌内科学教室) 教授	2型糖尿病における血管内皮細胞のメタボリック・メモ リーの形成と消去機構の解明
中村 俊文	慶応義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科 専任講師	糖尿病性腎症における細胞腫特異的MR機能解析に 基づく病態解明と新規治療戦略の開発
船本 雅文	徳島大学大学院医歯薬学研究部 薬理学分野 准教授	糖尿病性心筋症に伴う心筋老化の動態解析と予測法 の開発
槇野 久士	国立循環器病研究センター 糖尿病・脂質代謝内科 医長	高齢糖尿病の心不全発症におけるクローン性造血の 意義の解明
松村 欣宏	秋田大学大学院医学系研究科 分子機能学・代謝機能学講座 教授	運動習慣および新規血栓溶解機構に基づく心血管疾 患の予防・治療の基礎的研究
樺山 幸彦	国立病院機構東京医療センター 循環器内科 副院長、 臨床研究センター 副センター長	糖尿病と高い動脈硬化性疾患発症リスクを結びつける 血中バイオマーカーの探索:冠動脈造影施行例におけ る検討
山原 康佑	滋賀医科大学 医学・看護学教育センター 特任准教授	腎グルカゴン受容体のネフロンセグメント特異的役割 と糖尿病性腎障害への関与
山崎 裕自	関西電力医学研究所 糖尿病研究センター 上級研究員	心血管疾患の抑制に関わるインクレチンによる脂肪酸 代謝調節とRandle効果の関係

五十音順

2025年度 日本糖尿病財団・コストコ研究助成 対象者

(80万円または60万円)

氏 名	所 属	研 究 課 題
庄嶋 伸浩	東京大学大学院医学系研究科 糖尿病・代謝内科 准教授	新生児および若年発症糖尿病に関するATP感受性カリウムチャネルの分子動力学シミュレーションを用いた病態・創薬研究
錦戸 慎平	長崎大学病院 内分泌代謝内科 助手	抗原特異的CD8陽性T細胞を標的化した核酸送達システムによる新規1型糖尿病治療の開発
山縣 和也	熊本大学大学院 病態生化学講座 教授	MODY3原因遺伝子HNF1 α による膵 β 細胞増殖制御機構の解明

五十音順

第5回(2025年度) 日本糖尿病財団・サノフィ研究助成 対象者

(各225万円)

氏 名	所 属	研 究 課 題
浅原 俊一郎	神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学 教授	膵島におけるセロトニンが膵 β 細胞量に及ぼす影響の 解明
勝田 仁	九州大学大学院医学研究院 保健学部門 検査技術科学分野 教授	患者の膵臓内で膵 β 細胞を再生させる1型糖尿病根 治療法の開発を目指して～「膵組織幹細胞の膵 β 細 胞への分化制御機構」と「それを支持する膵組織内微 小環境」の解明
白川 純	群馬大学生体調節研究所 代謝疾患医科学分野 教授	1型糖尿病に関連する膵島細胞可塑性の分子基盤と 治療応用の探究
宮塚 健	北里大学医学部 糖尿病・内分泌代謝内科学 主任教授	1型糖尿病の病態解明に向けた膵 β 細胞由来血漿ペ プチドの同定およびアッセイ系構築

五十音順

2025年度 学術研究集会・総合調査研究 助成先

	学会・研究会名	内 容
1	滋賀医科大学第三内科同門会 学術講演会	滋賀県を中止とした医師の糖尿病の診療の向上に重要な役割を果たすべく糖尿病学や糖尿病性腎症の最新の知見を習得するための会であり、講師を招聘して基礎的・臨床的な最新の研究成果を学習することを目的として開催される。
2	第36回分子糖尿病学シンポジウム	分子生物学的観点から糖尿病を捉え、若手研究者の育成および糖尿病診療への分子生物学的知見の応用に貢献することを目的として開催される。
3	Young Researcher Initiated Focus Group Meeting on Islet-Cell and Incretin Biology 2026	第18回アジア糖尿病学会(AASD)に併せて開催される学術集会で、膵島細胞やインクレチンを中心とした糖尿病研究分野の深化と、次世代を担うアジアの若手研究者間のネットワーク形成・交流促進を目的に企画されたもの。
4	第11回日本糖尿病・生活習慣病 ヒューマンデータ学会年次学術集会	糖尿病や関連する生活習慣病について、人間でのデータに依拠したエビデンスをもとに、臨床、ケア、予防医学の推進に貢献することを目的とする学術集会で、「臨床研究」「データサイエンス」「疫学研究」の各分野の研究者が最新の知見を公表する。
5	大阪糖尿病アカデミー	糖尿病診療の向上と各医療機関の連携を強化することで、地域における糖尿病患者のQOL改善に貢献することを目的として活動している学術集会。
6	第31回日本小児・思春期糖尿病学会 年次学術集会	今回は「チームの絆で紡ぐ糖尿病医療～共働で深まる連携、自分らしさが輝く未来～」をテーマとする小児・思春期糖尿病に関わる情報提供や議論を行う学術集会。
7	J-DOIT2研究会	J-DOIT2で得られた膨大なデータと情報について、保管・管理および追加解析を行い、糖尿病患者の受診動向とわが国の糖尿病臨床の実態を分析して、実地診療の充実に資することを目的とする。
8	小児インスリン治療研究会	小児期発症1型糖尿病について、治療法、年齢、罹病期間、施設、病態等による血糖コントロールの違い、成長発達への影響、療養行動、QOL、合併症や予後を評価・解析し、より有効な治療法を確立させることを目的とする。

順不同